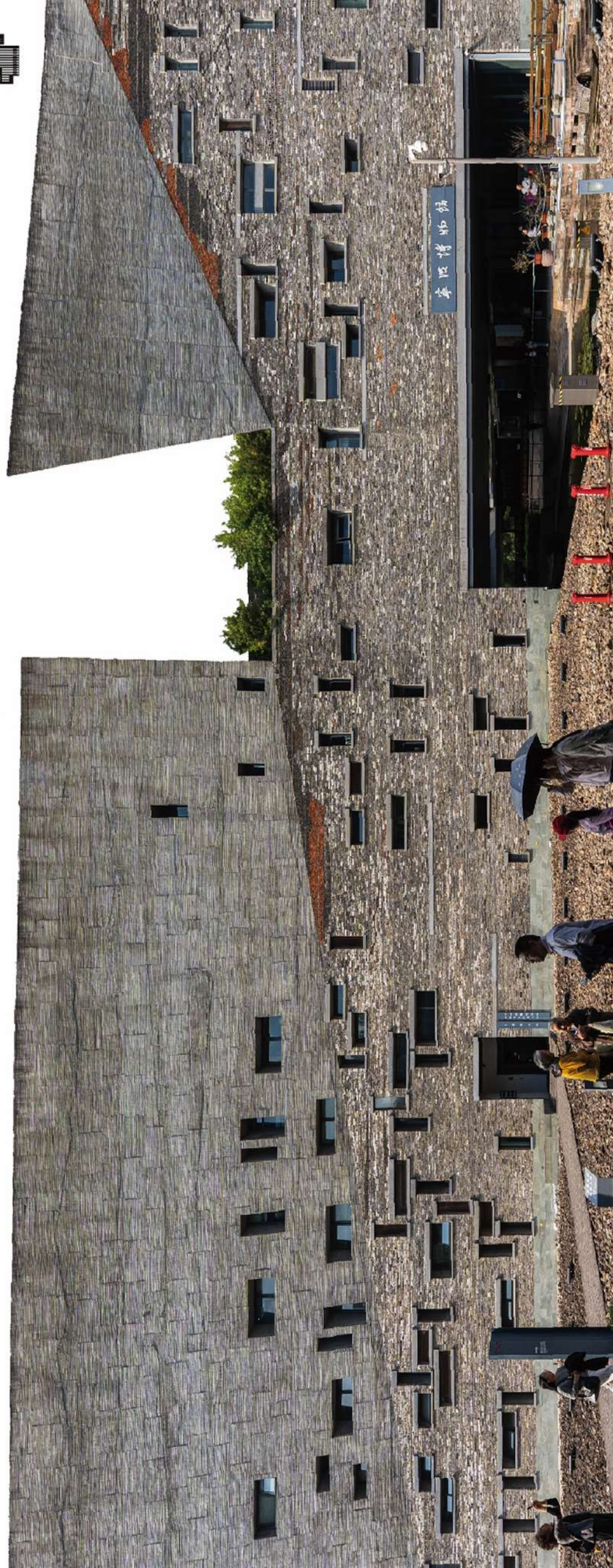
WATARI-UM
The Watari Museum of Contemporary Art

王澍＋陸文宇
建築の庭
——すべてはそこから

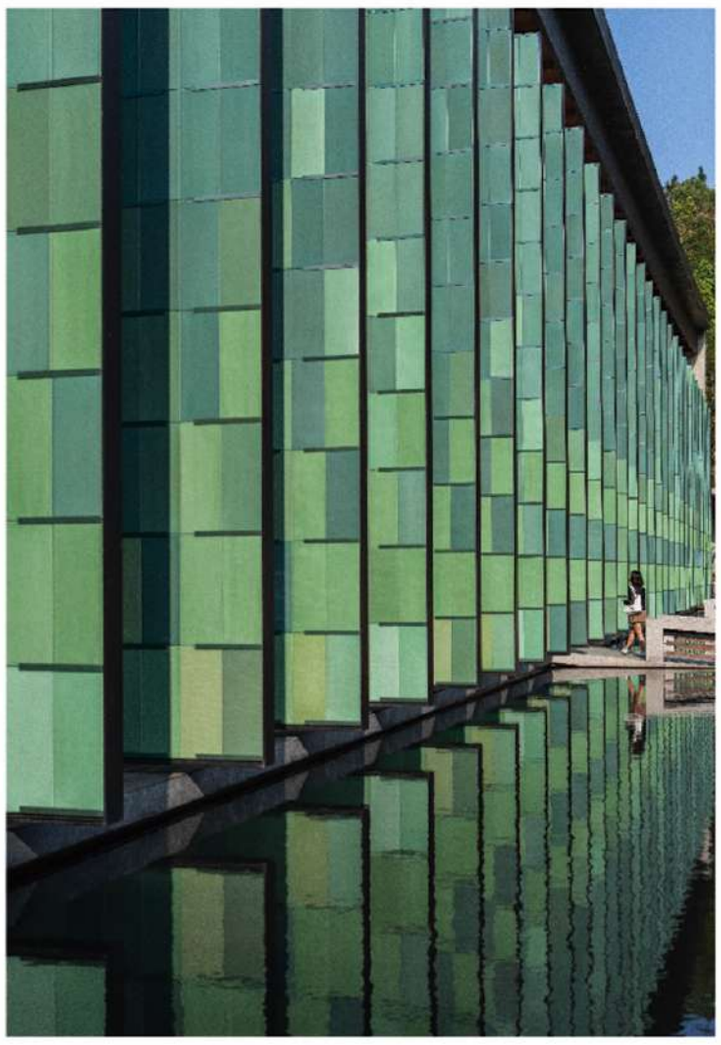
展覧会

2026年12月4日(金)
↓
2027年3月28日(日)
ワタリウム美術館

Wang Shu + Lu Wenyu:
Architecture as Garden
December 4(Fri.),2026-
March 28(Sun.),2027



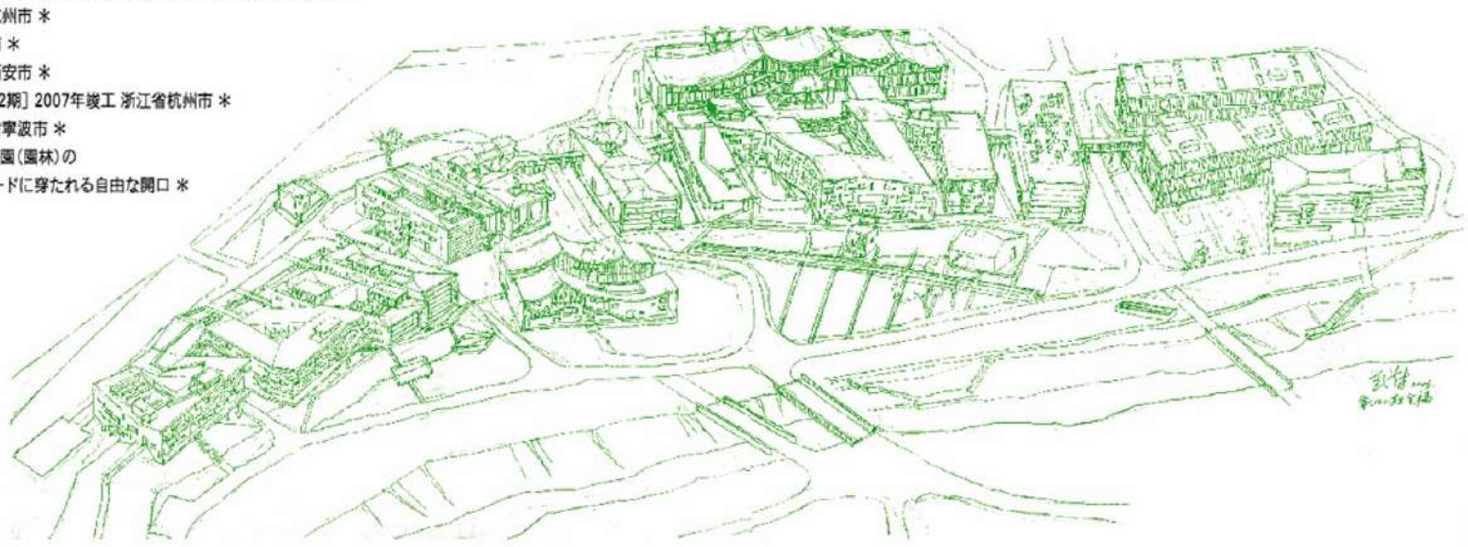
庭をつくることは、
私たちが今日慣れ親しんでいる
建築学とはまったく異なる、
もうひとつの建築のあり方を
示している。
それはきわめて土着的であり、
同時にきわめて
精神的な建築活動である。
—ワン・シュウ

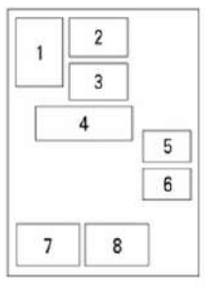






1. 中国国家版本館杭州分館 2022年竣工 浙江省杭州市 ＊
2. 寧波〈にんぽー〉博物館 2008年竣工 浙江省寧波市 ＊
3. 瓦爿壁〈わーばんへき〉解体された集落から廃棄された
レンガや瓦を集め再組積して作られるファサード
4. ドローイング 中国美術学院象山キャンパス［第2期］2005年、64.9X22.8cm、紙に鉛筆
5. 臨安博物館 2019年竣工 浙江省杭州市 ＊
6. 五散房 2006年竣工 浙江省寧波市 ＊
7. 西安大劇院 2025年竣工 陝西省西安市 ＊
8. 中国美術学院象山キャンパス［第2期］2007年竣工 浙江省杭州市 ＊
表1. 寧波博物館 2008年竣工 浙江省寧波市 ＊
表4. 太湖洞〈たいこどう〉中国伝統庭園（園林）の
太湖石の奇岩をイメージしてファサードに穿たれる自由な開口 ＊
＊撮影：富井雄太郎





ワン・シュウとルー・ウェンユーは、1997年に中国・杭州でアマチュア・アーキテクチャー・スタジオ（業余建築工作室）を設立して以来、急速な都市化と経済成長が進む現代中国において、独自の建築実践を続けてきました。
彼らが掲げる「建築すなわち庭（建築即園林）」という考え方は、中国の伝統的な庭園である「園林」への深い洞察から生まれたものです。園林とは、木、石、水、橋、亭などの要素が組み合わされ、自然物と人工物が溶け合うことによって、立ち上がるひとつの世界です。それは、ありのままの自然ではなく、自然と人間の想像力が交わることで生まれる、もうひとつの環境でもあります。ワンとルーは、この文人的な庭の思想を現代建築へと引き受けながら、山水画、詩文、工芸、そして土地に根ざした素材や技術を手がかりに、建築の新しい可能性を切り拓いてきました。解体された村落から集められた瓦やレンガ、石といった素材は、彼らの建築において単なるリサイクル材ではなく、また、瓦爿壁（わーばんへき）、現場の土による版築壁、石積み、木や竹による架構や仕上げは、失われつつある土地の記憶を呼び覚まし、新しい都市生活のなかに、別の時間を流れ込ませるための重要な媒体です。
本展では、原寸モックアップ、図面、模型、スケッチ、映像、写真、そして今回新たに設計・施工される茶室などを通じて、自然と人工、素材と身体、記憶と未来が交わる彼らの建築世界を紹介します。ワタリウム美術館の展示空間をひとつの「庭」として歩きながら、時間をかけて成熟してきた彼らの建築の魅力を体感する展覧会です。





ワン・シュウ+ルー・ウェンユー展 開催記念

シンポジウム「建築すなわち庭」

●日時：2026年12月5日（土） 13時—16時30分

ワタリウム美術館では、2012年にプリツカー賞を受賞し、2027年はヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展の総合キュレーターを務める建築家、ワン・シュウと、ルー・ウェンユーの日本で初めての本格的な展覧会「ワン・シュウ+ルー・ウェンユー展 建築すなわち庭」（2026年12月4日—2027年3月28日）の開催を記念してシンポジウムを行います。「建築とは何か」という世界の問いについて、日本の第一線で活躍する建築家、隈研吾と、妹島和世を交えて探求します。

巨大でシンボリック、アイコニックな構造物に頼らず、物語や感情を通じて建築的探求を表現する道はあるのだろうか？
—ワン・シュウ
2012年プリツカー賞受賞スピーチより

ワンさんとルーさんが、「建築は命ある生き物」という境地に達したということは大変興味深いです。私は、建築が風景の中にあるのではなく、風景全体こそが建築であると考えているので、「建築すなわち庭」という宣言にとても共感します。
—妹島和世
作品集『ワン・シュウ+ルー・ウェンユー 建築すなわち庭』より



妹島和世 ©Kohei Omachi



隈研吾 ©Designhouse

●第一部 13時より
基調講演「ワン・シュウ+ルー・ウェンユーの建築」
登壇者：ワン・シュウ+ルー・ウェンユー

●第二部 15時より
トークディスカッション「建築すなわち庭」
登壇者：妹島和世（建築家）+隈研吾（建築家）+
ワン・シュウ+ルー・ウェンユー
進行：藤原徹平（建築家）

＊第一部は中国語で、第二部は中国語と日本語で行います。中日同時通訳の音声は2.4GHzにて配信します。同時通訳をご希望の方はスマートフォンとイヤホンを必ずお持ちください。
＊第二部終了後、16時40分より、日本女子大学 図書館・青藤館（いずれも設計：妹島和世）の特別見学ツアーがございます。シンポジウムにご参加の方は自由にご参加いただけます。17時30分終了予定。

●会場：日本女子大学 成瀬記念講堂
東京都文京区目白台2-8-1
＊東京メトロ副都心線「雑司が谷駅」より徒歩約10分・JR山手線「目白駅」より徒歩約15分

●参加費：3800円
＊サポート会員2800円／アートパス会員3300円

●申込方法：ワタリウム美術館1F
または、参加募集サイトよりオンラインで受付中
参加者募集サイトはQRコードから

●主催：ワタリウム美術館
●助成：公益財団法人ポーラ美術振興財団
●協力：ワン・シュウ+ルー・ウェンユー建築展実行委員会／
日本女子大学建築デザイン学部

公益財団法人 ポーラ美術振興財団 POLA ART FOUNDATION

日本女子大学

参加者募集サイト





Wang Shu + Lu Wenyu: Architecture as Garden
December 4 (Fri.), 2026-March 28 (Sun.), 2027
Closed on Mondays (open on Jan. 11 and March 22) and Dec. 31 to Jan. 4
Open Hours : 11:00-19:00
Admission Fee: Adults 1,500 yen / Pair discount 2,600 yen / Student (high school to 25 years), Seniors (70 years and over), Visitors with disabilities, their caregiver (up to 1) with ID 1,300 yen / Children (elementary to junior high) 500 yen
Planning / Venue: WATARI-UM, The Watari Museum of Contemporary Art
150-0001 3-7-6, Jingumae, Shibuya-ku, Tokyo JPN
Organization: Executive Committee of Wang Shu + Lu Wenyu Architectural Exhibition
Curation: Wang Shu / Lu Wenyu / Takeshi Sukegawa / Koji Ichikawa / WATARI-UM, The Watari Museum of Contemporary Art
Venue design: FUJIWALABO
Graphic design: groovisions
Cooperation: Amateur Architecture Studio / School of Architecture China Academy of Art
Special cooperation: Air China / Kasei Bussan Co.,Ltd. / TEIKA Co., Ltd.
Subsidy: WINDOW RESEARCH INSTITUTE / Kao Foundation / The Asahi Shimbun Foundation
Support: Ministry of Foreign Affairs of Japan / Architectural Institute of Japan / Japan Institute of Architects / Embassy of the People's Republic of China in Japan
Publication: millegraph

●休館日：月曜日（1／11、3／22は開館）、12／31〜1／4●開館時間：11時より19時まで●入館料：大人1500円／大人ペア2600円／学生（25歳以下）・高校生・70歳以上の方・身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳お持ちの方、および介助者（1名様まで）1300円／小・中学生500円●企画／会場：ワタリウム美術館●主催：ワン・シュウ＋ルー・ウェンユー建築展実行委員会●キュレーション：ワン・シュウ／ルー・ウェンユー／助川剛／市川紘司／ワタリウム美術館●会場構成：フジワラテッペイアーキテクツラボ●グラフィックデザイン：グルーヴィジョンズ●協力：アマチュア・アーキテクチャー・スタジオ／中国美術学院建築芸術学院●特別協力：中国国際航空／カセイ物産株式会社／亭華株式会社●助成：公益財団法人 窓研究所／公益財団法人 花王財団／公益財団法人 朝日新聞文化財団●後援：外務省／日本建築学会／日本建築家協会／在日本中華人民共和国大使館●作品集制作：millegraph［株式会社ミルグラフ］

AIR CHINA 中国国際航空公司 STAR ALLIANCE
Borderless, カセイ物産


ワン・シュウ＋ルー・ウェンユー ©I.Mathie

ワン・シュウ 王澍／Wang Shu
1963年生まれの建築家。南京工学院（現・東南大学）を卒業後、同大学院修士課程を修了。2000年に上海同済大学大学院博士課程を修了。現在は中国美術学院建築芸術学院院長・教授。1997年からアマチュア・アーキテクチャー・スタジオ（業余建築工作室）を共同主宰。

ルー・ウェンユー 陸文宇／Lu Wenyu
1967年生まれの建築家。南京工学院卒業。現在は中国美術学院建築芸術学院教授。1997年からアマチュア・アーキテクチャー・スタジオを共同主宰。

ワンとルーが主宰する、アマチュア・アーキテクチャー・スタジオ（業余建築工作室）は、1997年に中国浙江省杭州市で設立された。「アマチュア」という名称には、巨大な設計組織や市場の速度に従うのではなく、伝統的文人のように、自らの「内的な基準」に従って建築を考えるという、批評的な態度が込められている。彼らは中国の伝統的な園林、山水画、詩文、工芸、そして各地の土地に根ざした素材や技術を参照しながら、建築と自然、古さと新しさ、素材と時間、形態と空間の新たな可能性を探究してきた。主な建築作品に、中国美術学院象山キャンパス、寧波博物館、杭州中山路保存改修計画、文村リノベーション、富春山館 臨安博物館、中国国家版本館杭州分館など。

©2026年12月刊行
『ワン・シュウ＋ルー・ウェンユー 建築すなわち庭』
ワン・シュウとルー・ウェンユーの初期から最新作までを包括する世界初の作品集。2012年のプリツカー賞受賞スピーチや、妹島和世との対話も収録。
○対話：ワン・シュウ＋ルー・ウェンユー×妹島和世
○解説：市川紘司○デザイン：小池俊起○印刷・製本：サンエムカラー○発行：millegraph○判型・頁数：224×297㎜・212頁○言語：日・英
○ISBN978-4-910032-18-4○定価：4900円＋税

ワタリウム美術館
WATARI-UM, The Watari Museum of Contemporary Art
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前3-7-6
Tel：03-3402-3001 Fax：03-3405-7714
Email：official@watarium.co.jp
URL：http://www.watarium.co.jp



交通：東京メトロ銀座線「外苑前駅」より徒歩8分
（青山通りを渋谷方面に向かい南青山3丁目交差点を右折。1つ目交差点左手）
TRANSPORTATION：Take the Ginza-line subway to Gaienmae-station.
It's an 8-minute walk from the station.

WATARI-UM
The Watari Museum of Contemporary Art